

【修学旅行二日目…】

礼儀正しさと時間の意識―】

修学旅行二日目、天気にも恵まれ、素晴らしい一日となりました。タクシーでの班行動でしたからあまり心配してはいませんでした。三年生のみなさんならきつと、充実した時間を過ごしていただくだろうと思っていたからです。数年ぶりに大変な混雑状態にある京都。海外からの観光客の方がとても多くなりました。有名所はどこもたくさんの人であふれていましたが、運転手さんの巧みな案内もあって、おおよそ計画通り進んだことでしょう。

午後はむしろ暑いくらいの陽気、日差しが燦々と降り注いでくれました。これも三年生のみなさんの行いがよかったからなのではないでしょうか。

班行動、京都の観光タクシーの運転手さんたちは、とてもよく勉強されています。歴史



上のちよつとしたエピソードや今使われている言葉の語源に至るまで、たくさん説明してくださったはず、改めて勉強になりましたね。また、みんなの力の素晴らしさを、改めて感じた一日でした。まずは次の写真です。



ホテルから出てタクシーへ向かうとき、そして帰ってきたときも、笑顔とともに元気の良い挨拶がたくさん聞きました。いろいろなところでみられたたくさんの方のすてきな姿に私自身もたくさん元気をもらいました。

普段の生活の中で何気なく行っていること、それらを旅先でも活かすことができたのではないのでしょうか。それが『Ryunan Spirit』だと思います。これからもぜひ大切にしてください。仲間たちと一日をかけて巡った京都。予定していた食事場所が混雑していて入れないハプニングもあったと聞いています。ガイドブックに載っていたお店が数日前に閉店していたところもありました。新型コロナウイルス感染症の影響は、こんなところにも及び寄っていた。あと一年感染拡大が続いていたら、京都市は破綻するとも言われていた

そうです。そんな悲しい現実にも遭遇した今回の旅路。様々な学びがありましたね。学びと言えば、夜は「伝統文化鑑賞教室」が行われました。京都の町を歩いていると、に



わか舞妓さんに出会うことは時々ありますが、本物の舞妓さんに会えることはまずないのではないかと思えます。十八歳という年齢、みんなと数年しか変わらないけれど、毎日毎日踊りや三味線等、たくさんのお稽古事をしながら、いろいろなお座敷で伝統芸能を披露するということでした。二曲踊りを披露してくださいました。踊りの意味(表現している内容)に

ついても解説していただきましたが、みなさんの目にはどのようなように映っていたのでしょうか。お礼にとみなさんが歌った「郷愁歌」、いつも以上に素晴らしい響きでした。ピアノ伴奏もない、アカペラでの合唱になりましたが、舞妓さんも本当に感動してくださっていました。みんなにとってこれから先も歌い続けていく曲だと思えますが、卒業式へ向けて終曲を飾るために、一日一日を大切に積み重ねていく中で、より深みのある、大切な曲へと進

化させていくもの、みんなの力でより素晴らしいものとして大切に育ててください。いろいろな意味でその大きな一歩が記せた今回の修学旅行でもありました。班行動から帰ってきたときのすてきな笑顔、それこそが充実した一日を過ごせた証だったと思います。夜の学級反省会、実行委員会やリーダー会でもたくさんの頑張りが示されていました。その真剣な話し合いの姿からも、みんなが自分たちの目標をしっかりと意識してお互いに声を掛け



合いながら頑張り抜いたことがよく分かりました。楽しむときは目一杯楽しんで、やるべき時にはやり抜くという、三年生の素晴らしい力を、改めて感じさせてくれた一日の振り返りでした。夕食は和食中心のメニューでしたが、とにかくよく食べてくれました。きつと一日中たくさん歩いて、いろいろなどころを見学したのでお腹がすいたのだと思います。仲間と会話しながら食べること、勿論安全に配慮しながらではあるけれど、それでも一日を振り返りつつの食事は楽しかった。みんなの笑顔が、何より物語っていました。さあ明日は学級別コース。最後まですてきな思い出をつくっていきましょう！！